

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和 4年 3月 1日

事業所名

スケッチブック

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		運動の部屋と作業の部屋を別に設けている	現在の活動スペースを考えると10人定員が適当であり、今後は活動室内の掲示環境などを整えていきたい
	2	職員の配置数は適切である	○		10名の利用者に対し通常4名の職員を配置	主な療育活動が就労に向けた作業であり、作業台が2台用意してある。そこに職員が2名ずつ付き見守りを行えるようにしている
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○	配慮を要する利用者には必ず職員が1名つく	階段があり、トイレも中2階にあるため、職員が必ず付き添うようにしている。全員が室内に入るまで階段の見守りを行う
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		利用者来所前には職員全員でミーティングを行う	前日の振り返りと活動の目標を全員で話し合う。児発管を中心に個別支援計画の見直しも進めている
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		年1回保護者アンケートを実施し、業務改善に生かしている	アンケート結果をもとに職員間で話し合い、改善できるように工夫していく。他の施設の活動も参考にしていきたい
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		毎年、自己評価結果をHP上に公表している	保護者評価結果、自己評価結果を公表し、広く利用者さんや他の皆さんに周知していきたい
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	社内において他施設の職員による評価、アドバイスをを行っている	第三者による評価は実施していないので今後検討していきたい。第三者の構成、評価の仕方等について検討していく
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		外部研修、社内研修、積極的に参加している	今後も外部で行われる研修に積極的に参加していきたい。各施設ごとに行う勉強会も充実させたい
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		契約時にアセスメントを丁寧に行い、計画の作成に生かしている	アセスメントによる情報を全職員に周知し、そのうえで個別支援計画の作成や日々の支援に向かっていきたい
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		より詳しい情報を得るために、独自のアセスメントツールを作成している	各施設の児発管が集まり、より使いやすいアセスメントツールを作成し利用している。以前より項目を詳しくし、状況を把握できるようにしている。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		全職員でプログラムの立案を行っている	就労に向けての作業を中心に何が出来るかを職員間で話し合いながらプログラムの立案を行っている
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		活動がマンネリ化しないよう配慮している。	同じ作業内容でもやり方を変えたり、数や回数を変えるなど工夫して行き、新しい作業も取り入れていきたい
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		平日、休日を意識して活動内容を工夫している	平日は作業をメインとして毎日違う作業に取り組み、休日は外出や調理実習を取り入れている
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		個別活動、集団活動を常に意識して計画を作成し支援を行っている	作業が多く個別活動が多くなってしまいが、運動や外出などで集団活動が出来るよう計画を作成していく
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		利用者来所前には職員全員でミーティングを行い、支援内容を確認する	職員間のミーティングを今後も大切にしていきたい。その日の活動内容を確認し、職員の役割や1人1人の目標を確認する。申し送り用紙も準備し、見返せるようにしている
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		○	申し送り用紙を準備し、翌日に振り返りを行うようにしている	支援終了後にミーティングが行えていないため、申し送り用紙を準備し気づいたことを記入して。翌日のミーティングで用紙を見ながら振り返りを行っている
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		連絡帳と活動日誌によって記録している	1人1人の連絡帳にその日の様子をしっかりと記録している。記録を取る時に、気づいたことは共有しながら進めている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		定期的にモニタリングを行い、計画の見直しを行っている	定期的なモニタリング、計画の見直しを看護もきちんと進めたい。さらに2年、3年という長い期間の利用者に対しては必要に応じて再アセスメントも行っていきたい
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせることで支援を行っている	○		活動が偏らないようバランスを考え活動を仕組んでいる	ガイドライン総則の基本活動を常に意識して活動計画を作成し、個の成長、自立をめざして支援を行ってきたい

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○	会議前に職員間で話をして、児発管が参加している	担当者会議の前には職員同士で話し合いの場を設け、児発管が会議に参加している。今後複数の職員で参加できるようにしていきたい
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○	主に学校への送迎時に、子どもの学校での様子や特別な連絡事項がないか担任の先生から情報を得ている	学校の年間計画や行事予定は年度初めに学校から頂いている。予定変更などの情報を得たときには、学校に直接確認するようにしている。利用者の翌月の施設利用予定(お迎えの予定)は、月末までには学校にお知らせしている。今後も学校との正確な連絡調整に心がけていきたい
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○	現在医療的ケアの必要な利用者がいない	現在医療的ケアの必要な利用者がいないため、体制は整えていない。今後医療的ケアの必要に応じて体制を整えていきたい
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○	他の4施設との情報共有に努めている	中高生の利用者が多く、他の4施設から利用されている方が多いため4施設との情報共有と相互理解に努めている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○	弊社生活介護「スケッチ」と連携を密にし、情報提供を心がけている	現在、3施設から高等部を卒業する生徒のほとんどが弊社生活介護「スケッチ」を利用されている。生活介護スケッチの利用にあたり個々に伝えなければならないことを正確に伝えられるよう意識している。今後他施設を利用する場合でも同様に情報を提供していきたい
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○	児童発達支援センター等の専門機関が行う研修会等にできる限り参加している	児童発達支援センター等の専門機関や大垣市障がい福祉課が主催する様々な研修会に積極的に参加できるよう心がけている。こうした研修の機会に個人的にアドバイスを求めることも意識していきたい
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○	障害のない子どもとの交流、活動ができないか職員間でよく話し合っている	保護者アンケートでも「そういう機会は少ない」と出ていた。これまで意図的にそういう活動を行ったことはない。これから職員で話し合いなんとかそういう活動を実現させたい
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○	自立支援協議会参加の案内をいただいたときには必ず参加している	今後も積極的にこうした会に参加したいと考えている
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○	自宅への送迎の際、子どもの姿を伝え合い共通理解を図っている	連絡帳でその日の様子を出来るだけ細かく伝えられるようにしている。送迎時にもその日の活動の様子や頑張りや伝えられるよう今後も行っていきたい
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○	保護者会の時、講師を招き障がいや子育てという視点からお話してもらっている	保護者会などの特別な会以外でも、子育てや障がいについて保護者に対して積極的にアドバイスをしていきたい	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○	契約の際、十分時間をかけて説明している	報酬改定等により利用者負担額に変更がある場合には、その都度丁寧に説明していきたい。また、施設の運営規程の変更なども必要に応じていねいに説明していきたい
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○	保護者の悩み等の相談にはできる限りの対応を行っている	いろいろな相談に対し、我々が持つ専門的な知識・経験や、職員自身の子育ての経験をもとに、保護者に寄り添い助言やアドバイスを続けていきたい
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○	以前は行っていたが、コロナの為に中止している。	保護者会を開催していたが、今年はコロナの為に中止している。今後は感染対策をしっかりと行い、療育参観、各施設での親子行事など検討していきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○	苦情等があった時には、その情報を全職員に伝え対応について考えることを徹底している	どんな苦情もすぐに全職員にオープンにすること。そして全職員で対応について検討し、迅速に動くこと。謝罪等が必要な場合、少しでも早く謝罪に向き誠意をもって謝罪すること。事後の報告をすること。これらを今後も徹底していきたい
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○	毎月1回活動の様子を新聞で伝えている。また毎週HPで活動の様子を伝えている	月に1回の新聞とHPでのブログを定期的に更新し、活動の様子を伝えられるようにしている。今後も継続していきたい
	35	個人情報に十分注意している	○	個人情報の取り扱いには十分注意している	今後も個人情報の管理に細心の注意を払っていききたい
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○	毎日の連絡帳ではわかりやすい表現で伝えるよう意識している	毎日の連絡帳、月に一回発行の新聞、いずれも読み手にとってわかりやすい表現や言葉を意識していきたい
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○	地域との関りが持っていない	地域との交流がほとんどなく、挨拶を交わす程度なので職員と話し合い活動の在り方を検討していきたい

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○	全ての対応マニュアルを整えている	全ての対応マニュアルを整えているが、保護者に対して周知という点ではまだ徹底できていない 利用者、保護者への周知に力を入れていきたい
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	年に2回地震火災避難訓練と水難避難訓練を実施している	今後も年に2回の避難訓練を実施していきたい 形だけに終わらないよう子どもたちにも意味を理解させ真剣な態度で行わせたい
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	全職員対象の虐待防止研修会を実施している	今後も社員研修の一環として社内の虐待防止研修会を実施していきたい 県主催の研修など社外での研修にも積極的に参加していきたい
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○	現在その対象となるような利用者はいない	今後やむを得ず身体拘束が必要になる場合には、きちんと手順を踏み、さらに日々の様子をきちんと保護者に伝えることを意識して進めていきたい
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○	アセスメントで食物アレルギーについて確認している	今後も食物アレルギーについてはきちんと確認し保護者の指示(医師の指示書)に沿って対応していきたい
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	ヒヤリハット、事故報告書を作成し共有している	ヒヤリハット報告書、事故報告書を作成し事業所内で常に話題にし共有している 同時に管理職に報告している 今後もこの形を継続していく